

医学図書館におけるMEDLINE：CD-ROM利用の現状と展望

医学図書館 堀口 純夫

はじめに

医学図書館では、平成5年9月7日から約1か月間にわたってMEDLINE：CD-ROM利用者を対象とした情報検索サービスに関するアンケートを実施しました。ここではその集計結果を踏まえて、サービスの現状および今後の課題を紹介させていただきます。

MEDLINE：CD-ROMとは

MEDLINEは、米国国立医学図書館(NLM)が制作している医学文献情報データベースで、医学分野を中心に、歯学、看護学など3,000誌余りから論文を収録しています。そのCD-ROM版が今回ご紹介するMEDLINE：CD-ROMであり、医学図書館で、平成3年4月にSilverPlatter社製のものを導入、エンドユーザ・サーチ方式をとってサービスを提供しております。

アンケートの結果と考察

今回のアンケートの結果いくつかの問題点が明らかになりましたが、もっとも顕著だったのは、検索機を利用できる時間帯および検索機の台数が利用者のニーズに対応していないということでした。

「情報検索サービスに関して、医学図書館はまず何をすべきだと思いますか」という質問に対して、45人中29人(64.4%)もの利用者が「CD-ROM検索機を増やす」と回答しました。また、「CD-ROM検索機を利用するのにもっとも都合のよい時間帯はどれですか」という質問に対しては、23人(51.1%)が「17時から21時」、10人(22.2%)が「21時以降」と回答しています(重複回答あり)。現在、医学図書館には検索機が1台しかなく、また9時から17時までの8時間しかサービスを提供していませんので、図書館の運営方針と利用者の希望との間に大きな隔りがあることがわかりました。また「21時以降」と回答した利用者10人のうち8人までが臨床関係者である医員・研修医で占められていることに、医学図書館の特殊性があらわれています(表1)。

表1 利用者の身分と利用に都合のよい時間

	合計	教官	医員・ 研修医	大学院生	学生	職員	その他
	(40)	16	17	12	1	3	1
9～12時	(3)	2	0	0	0	1	0
12～17時	(8)	3	3	1	0	1	0
17～21時	(23)	7	5	9	1	0	1
21時～	(10)	1	8	1	0	0	0
いずれとも 言えない	(6)	3	1	1	0	1	0

ところで、平成4年度のCD-ROM利用者統計を見てみると、検索機の稼働率（利用できる時間に対する利用された時間の割合）は、年平均68.1%となっています。月によっては100%に近いこともあります。意外に稼働率が低いというのが実感です。したがって、利用希望が特定の時間帯に集中するため、稼働率の数字以上に不便を感じている利用者が多いことが想像されます（表2）。

今後考えられる対策

(1) 利用時間の延長

平成5年6月より「正常な管理のもとで利用していただく」ことを理由に、夜間開館時間および土曜日におけるCD-ROM検索サービスの提供を中止しました。しかし、今回のアンケートの結果にも明らかのように、現在のサービスは利用者のニーズと大きく懸け離れていると言わざるを得ません。カウンター業務をアルバイトがおこなっていることや、CDの交換が煩雑で破損事故などの可能性が高いこと等を考えると時間延長再開に踏み切るには甚だ不安がありますが、利用者の意見をなるべく尊重する方向で善処しなければならないと考えております。

(2) オンライン・データベースの紹介

情報検索の方法には、MEDLINE:CD-ROMのほかにオンライン・データベースを利用するという手段があります。

平成5年1月より、学内LANに接続されたパソコン端末からインターネット経由で学術情報セン

表2 平成4年度CD-ROM検索機稼働率

	利用できる 時間 (時間)	利用された 時間 (時間)	稼働率 (%)
4月	170	94	55.3
5月	143	88	61.5
6月	194	192	98.9
7月	166	98	59.0
8月	134	130	97.0
9月	114	72	63.2
10月	141	84	59.6
11月	137	83	60.6
12月	103	70	68.0
1月	111	64	57.7
2月	100	66	66.0
3月	130	78	60.0
合計	1,643	1,119	68.1

ターの情報検索サービス NACISIS-IR (以下、IRと略) が利用できるようになりました。IRではEMBASEをはじめ医学文献検索に役立つデータベースもいくつか提供されています。さらに、検索中にREQUESTコマンドを使用して、中央館や各分館に文献複写を依頼できる機能もあります(ただし、この機能を利用するには別に登録が必要です)。

同様に大型共同利用センターや筑波大学学術情報処理センターの文献検索システムを利用するのも有効な手段です。ちなみに筑波大学の文献検索システムUTOPIAでもEMBASE等を検索することができます。

オンライン・データベースには、コストが高い、利用者が納得いくまで時間をかけて検索することが難しい、等のデメリットがあります。しかし、IRの場合なら無料の練習用データベースで十分に慣れてから検索することができますし、UTOPIAならば一部無料で利用できるデータベースも提供されています。こうした方法を紹介し普及させていくことによって利用者の検索手段が多様化すれば、MEDLINE:CD-ROMへの利用の集中が多少なりとも緩和されていくのではないかと考えられます。

おわりに ～CD-ROM検索の今後～

全国の図書館の中には、館内にCDサーバを組み込んだ小規模のLANを構築し、内線電話回線や学内LANを経由して研究室等の端末からいつでも自由にCD-ROMデータベースを利用できるシステムを導入しているところがあります。今回のアンケートでも「医局の端末から利用できるとよい」「24時間体制でサービスを提供してほしい」との意見がいくつか寄せられましたが、このシステムが導入されれば、これらはかなり現実のものとなります。しかし、いざ導入に踏み切るためには、予算および導入後の管理の面において、クリアしなければならない多くの問題が生じてくることが予想されます。

利用者の皆様にも、情報サービスのこういった進歩に関心を持ってくださる方が増えれば幸いです。